

唐津市男女共同参画推進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成31年3月27日（水） 13:30～15:30
- 2 開催場所 唐津市民会館第2会議室
- 3 出席者 《委員》池田委員（会長）、石山委員、浦郷委員、斧山委員、久保委員、
竹永委員、田坂委員、田代委員、谷口委員、中島委員、
能隅委員、松本委員、吉村委員

《市》峰市長、久我未来創生部長

《事務局》男女参画・女性活躍推進課 坂口課長、森係長
- 4 欠席者 《委員》 合田委員、坂口委員
- 5 傍聴 1名
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議事
 - 第1部 市長と語る男女共同参画（市長を交えての意見交換会）
 - 第2部 計画策定に向けた検討
 - ① 唐津市の男女共同参画の現状と課題について
 - ② 今後の進め方（平成31年度予定）について
 - (4) その他
 - (5) 閉会

【会議概要】

1 意見等の概要

第1部 市長と唐津男女共同参画

	市長講話のあと、委員からの質問・意見に市長が回答
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県では女性の視点からの避難所運営マニュアルづくりに着手されるが、唐津市として同じようなマニュアルの作成は考えられていないか。男女共同参画の視点で避難所運営マニュアルを作成してほしい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年末に原子力防災マップを全世帯に配布し、3月末から4月にかけては防災マップを全世帯（該当する地区毎）に配布することとしている。防災マップは土砂災害や豪雨の際の浸水状況など、過去の大きな災害の状況などを踏まえた内容となっている。そのマップを見て、自分の家がどのような状況にあるのかを確認して、備えていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップも大切だが、お願いしたいのは避難所の運営についてのマニュアルが必要だということ。避難所の中で具体的にどうするのか、トイレの問題や支援物資の配給の仕方、授乳の問題など、避難所運営マニュアルを佐賀県が作成されるので、唐津市でもマニュアルを作っていただきたい。 ・防災・防犯に関する教育が大切である。子ども達に対して護身術などの防犯教育にも取り組んでいただきたい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・所管部署に伝えたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体活動をする上で、新しい会員、特に若い会員が入ってこない、会員獲得に苦労している。女性が活動をする際、夫の許可がないといけないという状況があり、夫の方に相談したところ、「60代以上の会員がすべて辞めれば若い会員が入るので、高齢の会員が辞めてみたらよいのでは？」と言われた。市議会議員などは70代くらいの方が多く感じる。「男性は60代70代の方がまちづくりで頑張っているのに、女性は60代を超えるとまちづくりに参加できないのか。」と尋ねると、「今はそういう世の中だから、今の若い女性はみんなそう思っている。」と言われた。男女差別・男女平等だけでなく、年齢でもハラスメントがあると感じた。市議会を見ても、女性議員は党に所属している人しかいない。市民は女性議員を求めているのだろうか。また、以前、子どもの学校のPTA会長を引き受けていただきたいと（男性に）言われたことがあるが、会長になるのをやめた方がよい、と言ったのは女性だった。女性自身にも、女性はある程度までしか出てはいけないという意識があるのではないだろうか。男性の意識改革だけではなく、女性自身も意識を変えなければならないと思う。 ・市議会議員や国会議員が、唐津の女性リーダーを育てようという動きがあるようだ。ただし30代で。自分たちは自分たちなりに頑張ってきた。もちろん若い世代に託さなければならないという思いも

	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画を考えると、「女だから、女のくせに」と言うことがいけないというのも理解できるが、それを全く無くしてしまったらどうなるのだろうとも思う。女性は女性らしい、女性が持っている独特の雰囲気というものがあるが、女性リーダーや女性が活躍する場面でそれが無くなってしまいうのもどうかと思う。男女共同参画の男女平等ということに関しては、大きな問題があると考えている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の子どもへの接し方が根底にあると感じている。子どもも1人の人格者なのに、それを「子どもだから」とか「〇〇だから」とか、そういった意識があることによって、違った理解をしているのではないだろうか。若い、高齢など、人は年齢ではないと考えている。しっかりとした気持ちを持っていれば、年齢や性別にこだわることなく、志が人を作り上げるのではないかと考えている。それを家族であっても別の人格で、個人個人が自分の志をどう動かせるのかが、大事なことだと思う。 議会でLGBTsの問題が取り上げられており、市としても取り組むようにと言われている。まずは講演会などに参加するなど、知ることから始めていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「男性らしさ、女性らしさ、女のくせに、男のくせに」ということで、自分自身、その言葉は好きではないが、男性女性が変わらなくなってしまうたら、それはそれでどうかと思う。 所属する団体の活動方針のようなものに、「女性らしいしなやかな柔軟性をもって・・・」というものもある。この考え方自体、古いとも思うが、無くしてしまってもいけないのではないかなと思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 立ち位置は大事だと思う。人は自分を取り巻く環境で成長していく。環境によって思想が作られていく中で、他人に対して同じ立ち場で物事を見られる、そういった感性を育てる必要がある。 活力は年齢では測れない。年齢で物事は測れないと思う。自分に正直になれる社会を作っていくことが大切だと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会というが、男女の前に“老若”を付けるべきだと思う。男女の区分けだけではなく、日本には年齢差別がある。男女共同参画社会が目指すべきところは、老若男女共同参画社会でなくてはいけない。 先ほどの発言に、「60代以上は辞めるべき」とか、「30代のリーダーを育てなければいけない」とあったが、それはまさに上から目線で、女性というものは、今から自分たち（男性たち）が育てていかなければ、リーダーはできないと勘違いしている人がまだまだたくさんいるようだが、実際に女性のリーダー候補者は数多くいる。 女性の能力が正当に公平に評価されていないという、そのことが課題である。女性は十分に力を付けて、女性たちが能力も高めてやる気もあるのに、その女性たちをリーダーとしてちゃんと評価していないということが、女性が直面している課題である。 頑張る女性が正当に評価され、求められる地位に上っていくことは

	<p>行政の中だけでなく、一般社会でもそのようになっていくべきだが、実際はそうになっていない。まずは市役所が、（女性職員の登用など）女性を正当に評価するという世の中に示していくこと、女性は、正当な評価が得られないときには、正当な評価が受けられるように訴えていく力を付けていくことも、今後必要になってくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的審議会等の女性委員登用率40%以上を目指しているが、現状は31.9%。人材の掘り起しに尽力していただくとともに、能力があっても引っ込み事案でなかなか前に出られない女性もいるようなので、どんどん引っ張っていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会のクオータ制については、どう考えられているか。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、議員の成り手が少ない。従来のシステム（例えば弔電など）を変えていこうという動きも他の自治体では出てきている。議会側から従来のやり方を変えようという動きがあれば、クオータ制について考えることも出てくるかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員の成り手がいないことの大きな理由の一つが、お金がかかるとのことだと思う。有権者側の意識改革も必要ということだと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員ではないが、地域の代表者があつまると男性ばかりになっている。地域の代表がすべて男性だと意見に偏りが出てくるので、別枠で女性枠を設けるなど、女性の意見を出せるようなシステムづくりができないか、そういうところからクオータ制のような取組を行って市民の意識を変えていくことは重要な取組かもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館の主催講座の参加率は、女性7、男性3で女性のほうが多い。住民が主体となって進めるサークル活動になると、9割の主催者は女性が代表者になっている。公民館の立場で見ると、女性はとても活躍されていると感じている。公民館が成り立っているのは、女性のおかげ（と言っても過言でない。）特に70代から80代の女性のパワーがすごい。外に出て活動をしている人は、とても元気で、生活の質も高く、生きがいと文化を自分たちが担っているという意識も高い。男性にも参加して欲しいと呼び掛けているが、なかなか増えない。男性も参加しやすいように新しい取り組みを企画するなど、工夫はしているが、予算自体がカットされ、講座の回数を減らさざるを得ない状況である。 ・ 生活の質は、人と触れ合うこと、学び合うことで高まっていくと思う。公民館は地域の人々の生きがいとパワーの場所であるので、活動充実に支援をいただきたい。 ・ 中学生アンケート結果を見ると、男女が一緒に働き一緒に支え合っていきたいという意見が多く出ていたので、そういう気持ちを大人の側が受けとって、次世代につなげていきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまなことを学ぶ中で、自分の価値観に気づかされることが多い。（価値観の違いを）理解するというよりは、お互いを認め合う、尊重する心が育っていく社会が理想ではないかと思う。 ・ 学校の先生から、先生の性別で児童の態度が違ふという指摘をいただいている。親が子どもたちにそういうことをしてはいけないと言

	うだけではなく、子どもたちが育った環境も影響しているのではないかと、思う。地域で大人も子どもも一人ひとりが自分も相手も尊重する、お互いの価値観を認めるという教育、心の育みを聞ける場所がもっと増えていくとよいと思っている。子育て中の母親を対象とした講座はよく開催されているが、男性や子どもたちも学べる場があるとよいと感じている。
市長	・会議、会合を開催するとき、開催時間はいつがよいのか、とても考える。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・どの時間帯がよいのかということだが、すべての人にぴったり合う時間というのは、なかなかない。その会議自体に行く価値がある、やりがいがあるという価値があれば、メンバーの皆さんは努力して時間を作って参加されるので、どの時間帯かというよりも、その会議が充実したものであることが最も重要であると思う。 ・メンバーが時間を作って参加している会議なので、出された意見の中には難しいものもあるかと思うが、できるだけ意見を生かして計画を作り上げていっていただきたい。

第2部 男女共同参画行動計画策定に向けた検討

	市民意識調査、企業アンケート調査、中学生意識調査の結果概要説明のあと、委員からの質問・意見聴取
会長	・「女性は結婚したら家庭を中心に考えた生活をしたほうがよい」という設問があるが、「女性」を「男性」に置き換えた設問はあるか。
事務局	・「女性」を「男性」に置き換えた設問はない。
会長	・「女は家庭、男は仕事」の反対の設問というのは、あまりにも極端な話なので、設問として成り立ちにくいのかもかもしれないが、男性も結婚して家庭を中心に考える子どもたちの割合がどのくらいいるのか、などがわかると、もっと良かったのではないかと思う。次回5年後の調査の際は、「男性は結婚したら家庭を中心に考えたほうがよい」と「男は家庭、女は仕事」のように、入れ替えた設問も検討されてみてはよいのではないかと思う。
委員	・30代40代で「妻は家庭を守るべきである」と考える人は少なく、これは、若い人の意識の変化の表れであると捉えることもできるが、現実的に正規の労働者が減って非正規が増えて、夫婦二人とも賃金が低いために二人とも働かなければならないという状況も反映しているのではないかと思う。世帯当たりの収入などについてのデータはないか。
事務局	・今回は市民意識調査等の報告ということで、統計データは準備していないが、計画書を作成する際は、統計データを用いて問題の背景を表すなど、唐津市の現状と課題を明らかにしていきたい。
委員	・日常の家事について、女性は「自分がしている」という意識が強い一方で、男性は「分担している」という意識が見られる。男性は手伝い＝分担と考えていて、女性は主務として自分がやっているということではないかと思う。次回アンケートを取る際は、手伝いのな

	か、一緒になのか、そういうところに配慮してデータを取った方が良いのではないかと思う。
事務局	・ 次回調査の際は、判断基準を揃える設問を研究したい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男と女には考え方に違いがあるということも計画の中に入れていければ、調査の甲斐があったと言えるのではないかと思う。 ・ 子どもたちに「男らしく、女らしく」を言っている大人に、「先生」という回答があることが気になる。先生から言われているという意識を子どもたちが持っているということは、大きな問題点である。
委員	・ 家庭での家事分担について、自分自身の状況だけではなく、育った環境はどうだったのかも、是非知りたいと思った。育った環境がそのまま回答に表れてくるのか、自分が嫌だったので反対の状況が表れてくるのかなど、育った環境がどう影響するのかを見てみたいと思った。
委員	・ 女性が少ない業界で仕事をしているため、仕事の依頼で「女性指定で」と言われることが多い。「女性指定」と言われると、相手が“優しく、丁寧に、細やかな気配り”を求めているのかな、と思って対応していたが、先ほどお話にあった「男らしさ、女らしさ」が無くなったらどうなるんだろう、との問題提起だったかと思う。今回のアンケートでも「男らしさ、女らしさ」とう設問を見て、自分自身は男性も女性も人である以上、性別に関係なく同じように行動して同じように関わるべきと常日頃考えてそのように言っているが、実は潜在的に「女性とはこういうものだ」という意識をかなり持っているということに気づかされた。
委員	・ 地域における男女差で、出不足金があるが、今は年齢で出不足金を取られている。人口は減少しているが、世帯数は増えている。高齢者施設に入っているが、家を残していたら、その世帯からも出不足金を徴収されているようである。地域活動を考える上で、男女差のほかに年齢差なども考えていく必要があると感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代は、学校で男女ともに家庭科を学習しているので、家事をする男性がもっと増えているのではないかと思っていた。調査の結果は自分が思っていたよりも低かった。物理的にできないところもあるのかもしれないが、意識は変わっても実際にやるのはなかなか難しいと感じた。 ・ 家族が区の役員をしているが、会議に女性はほとんどいない状況である。女性もいたほうが良いという話をしたが、女性は引き受けてくれる人がいないというのが実態のようである。女性側の意識も変えていかないといけないと思った。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭では分かっているが、行動として一步を踏み出せないということだと思う。（男性の育児休業、女性の地域参画） ・ 「会議で女性が発言しにくい雰囲気がある」という設問があるが、発言しにくいと思っている人は、発言したいという思いはあるということ。思いのある人が勇気をもって一步を踏み出せるような、そういう政策を市には考えていただければよいと思う。